

講義名	商業簿記（マーケティング学科）			授業形態	
担当教員	来栖 正利	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 3時限/後期 木曜日 4時限		
		単位数	4	履修開始年次	2年生

主題と概要

商業簿記での学習事項を理解していることを前提に、引き続き、簿記の技法の記帳方法を講義します。講義範囲は日本商工会議所主催の日商簿記検定試験の商業簿記2級の範囲です。

到達目標

商業簿記2級で問われる項目に関する問題を解くことができることに加え、その解説ができることを到達目標とします。具体的に述べるつぎようになります。
 (1)簿記一連の手続きについて理解するとともに、会計帳簿と財務諸表を作成できるようになる。
 (2)会計帳簿や財務諸表の作成を通じて、ビジネスの諸活動を計量的に把握する能力を身につけることができるようになる。
 (3)日商簿記検定2級を合格することができる能力を身につけることができるようになる。
 (4)会計の専門科目や隣接分野（経営・ファイナンス等）の科目の学修に際して役立つであろう基礎的な知識を身につけることができるようになる。

提出課題

講義内容に関するレポート課題を、基本的に毎回の講義毎、レスポンスに作成・提出してもらいます。これは講義に実際に出席したか否かを問わず、出席調査を兼ねます。なお、出席調査を加点の対象にはしないものレポート課題実施回数に対して1/3以上を提出しなかった場合、履修放棄と判断し、最終評価を確定します。したがって、講義に出席したにも関わらず、レポート課題を提出しなかった場合には「欠席」となります。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

解答等をPortalに掲載する予定です。

評価の基準

(1)100点満点の定期試験の得点に基づいて最終評価を確定する。なお、コロナ感染症の状況によって定期試験の実施が不可能になる可能性を踏まえて、講義期間中に実施する課題作成と提出を欠かさないようにしてください。
 (2)コロナ感染症による定期試験の中止を踏まえて、日本商工会議所主催の簿記検定2級の合格を加点対象にする(30点の加点)。在籍中の合格であれば、オンライン受験であるか会場受験であるかを問わず、詳細は12月中に説明する。

履修にあたっての注意・助言他

講義出席を強制するようなことをしないのは、履修者自身が自分自身の必要性に基づいて勉強するならば十分単位修得ができるからである。言い換えるならば、講義室に「居る」だけならば、単位修得は不可能である。

教科書					
.日商簿記2級に"とある"テキスト(商業簿記).	ネット・スクール	ネット・スクール	2200	9784781032214	
.日商簿記2級"とある"トレーニング(商業簿記).	ネット・スクール	ネット・スクール	2200	9784781032221	

参考図書					
.なし.					

その他
ありません

授業計画

第1回 講義概要
 第2回以降-
 Chapter0 2級合格への扉～簿記の本質～
 Chapter1 現金簿記
 Chapter2 商品売買
 Chapter3 手形等の取引
 Chapter4 固定資産
 Chapter5 有価証券
 Chapter6 外債建取引
 Chapter7 引当金
 Chapter8 純資産会計
 Chapter9 税金の処理
 Chapter10 決算
 Chapter11 月次決算
 Chapter12 本支店会計
 Chapter13 仕訳員計表
 Chapter14 連結会計
 Chapter15 製造業会計

(注意)学習事項の難易度に応じて講義回数を変更するため、詳細な日程の記載をしない。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

指定した教科書の内容を講義および解説する上で、自分のペースで勉強が可能である。ただし、少なくとも講義時間の数倍の時間をかけて予習(2時間)・復習(2時間)しないと、講義項目を理解できても、それが問題演習の正解を得ることは難しい。なお、講義時間の数倍の時間をかければ問題演習の正解を得ることができることを意味しない。あくまでも履修者自身の主体的な努力がない限り期待した成果を得ることは極めて困難である。教科書に記載されている過去問やそれ以外の過去問を自力で解答かつ正解を得ることができるようになるまで、講義内容を理解することが必要です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

ディプロマポリシーとの関連について説明すると下記ようになります。

到達目標(1)から(4)を達成することにより、経営学科DP(1)・、会計コースDP(5)・、(5)・、マーケティング学科DP(1)・、ブランド戦略コースDP(2)・、流通ビジネスコースDP(3)・、(3)・)の達成に貢献します。

経営学科DPは以下の通りです。

DP(1)・
 各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識を身につけ、これをもとに、企業マネジメントに関する問題探索、課題提案ができる

会計コースのDPは以下の通りです。

DP(5)・
 簿記・会計の学問的知識を身につけ、企業の財政状態、経営成績、キャッシュフロー等に関する情報を作成、分析することができる
 DP(5)・
 企業の社会的役割を理解したうえで、修得した専門知識をもとに企業が直面する問題や企業の強みを発見し、経営戦略の構築に貢献することができる

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

標準知識ならびに標準技法習得を目指す講義であり、議論を主軸に運営する講義ではありません。

実務経験の有無及び活用

ありません

備考